

北川

Kita River

宮崎県



北川は宮崎県北部を流れる一級河川五ヶ瀬川の最大支川です。流域は山地が大部分で自然が多く残り、河道には湿地やワンドが多く点在し、多くの貴重な生物が生息しています。しかし、平成9(1997)年9月台風19号に伴う出水によって堤防が決壊し、大きな災害が発生しました。このため、治水安全性を確保するため5ケ年にわたる「激甚災害対策特別緊急事業」が実施され、その事業においては北川の自然環境の保全・再生に配慮した改修が行われました。

この事業の目的は治水ですが、自然環境を保全するために、低水路の掘削はできるだけ避けて、魚付き林を残しながら樹木の伐採や、河積の拡大のため平水位(1年を通じ185日はこれを下らない水位)以上で高水敷の掘削が行われました。また、河積拡大のために撤去されたワンドの代わりに「人工ワンド」が造成されました。この人工ワンドでは、造成後の調査で魚類72種、カニ類12種、昆虫類6種の合計90種もの生物が確認されました。このうち6種の絶滅危惧種も含まれており、十分な効果を果たしていることが分かりました。このほか、北川



高水敷掘削による自然再生



河口部の干潟とヨシ原

では支川友内川での自然再生、霞堤部分の保全、河口部の干潟再生などが実施されています。

平成11(1999)年に河川生態学術研究会北川研究グループが発足し、事業計画や実施のサポートを行っています。主なテーマは①河道掘削後の河床変動の検討、②野生動物の行動に配慮した河川改修工事の在り方、③砂州での植生域変動の定量解析、④感潮域ワンドの生物の定着状況、⑤河口域におけるハマガニ等の生息環境、等です。

その後、五ヶ瀬川本川においても、平成17(2005)年9月台風14号によって甚大な災害が発生しました。このため、北川と同様に「激甚災害対策特別緊急事業(平成17(2005)～平成22(2010)年度)」が行われています。この事業でも北川の事業成果を活かして、河川再生するために、干潟、ヨシ原、ワンドの保全、瀬・淵構造の保全、河畔林の保全などが行われています。